



ななつかの風～

畜産技術センターニュース

発行事務局
 ●広島県立総合技術研究所
 畜産技術センター技術支援部
 〒727-0023
 庄原市七塚原584番地
 TEL 0824-74-0331
 FAX 0824-74-1586

新出センター長の2年目の所信表明



センター長の新出です。

平成29年度は、総合研究所の中期事業計画(H29～32)が策定され、計画初年度となります。

畜産センターは、農林水産局との連携、人材育成を通じ、行政施策実現を強く支援して行きます。

本年度の重点項目は、①H30年1月稼働に向けた和牛用TMRセンター具体化支援、②受精卵作出供給による県産和牛増

頭支援、③耕畜連携を強力に推し進める飼料イネ・飼料用米の生産利用支援、④県産和牛の販売促進につながる県産和牛のブランド化支援です。

当センター職員60人は、畜産技術の実践者たるプロとして、技術開発と技術支援の両輪を回します。期待に応えるべく全力で突き進みます。

第50回春の七塚原写生大会開催

5月5日の子どもの日に、子どもたちや保護者の参加により、七塚原写生大会実行委員会主催の写生大会が盛大に開催されました。

当日は、雨も心配されましたが、まずまず天候にも恵まれ、普段はなかなか立入ることのできない牛舎やヤギのすぐそばで、思いおもいに画用紙に描かれていました。

畜産技術センターは、毎年農場を開放するなど、センターをあげて写生大会に協力しています。



中庭には、特設のヤギの放牧ゾーンが設営され、その周りで多くの家族連れがじっとしていない動物相手に悪戦苦闘していらっしゃいました。

中には、七塚原名物のポプラ並木を道路の真ん中に陣取りじっくりと描かれているグループもありました。

暖かな1日、七塚原高原で楽しい思い出づくりをされていました。



研究開発課新任者等センター視察 ！

今年4月に着任の渡邊総合技術研究所所長ほか、研究開発課4名の職員が、4月11日(火)に畜産技術センターに来所されました。

センター恒例の朝のラジオ体操と朝礼を見学されたのち、分娩牛舎、種雄牛舎、和牛舎、搾乳牛舎と場内の施設を視察されました。続いて、本館や先端技術棟では研究内容の説明を行いました。

当日はあいにく小雨模様で、場内の桜を十分にみていただけませんでした。

次回来所の時には、ぜひ、晴天の中で七塚高原の澄んだ空気に触れていただきたいと思います。お待ちしております。



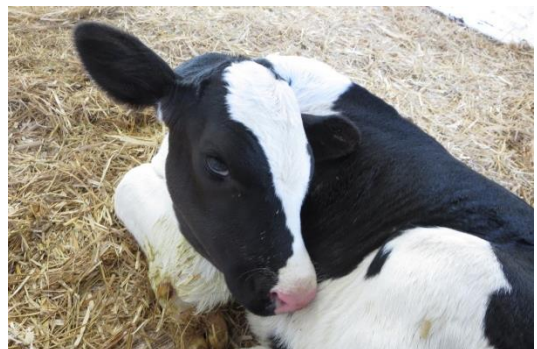
次々と元気な子牛が生まれています。

例年30頭程度の子牛が当センターで誕生します。4月11日(火)に今年度第1号が生まれました。体重39.7kgの元気なオスでした(写真左)。

写真の通り、お母さん牛と生まれた牛の品種が異なっております。これは、受精胚移植技術によって生まれた子牛だからです。

この後も4頭の黒毛和種が生まれ、5月16日には、待望のホルスタイン種メス子牛が誕生しました(写真下)。

6月にも子牛が生まれる予定となっており、無事に生まれてくれることを心から祈っております。



平成29年度試験研究課題及び行政支援事業一覧

意欲ある事業者等や事業局が発信する課題解決に注力し、顧客アイデアの実現と効果の波及に貢献する

| 課題名 | 研究種別 | 年度 | 内容概略 | 担当部 |
|------------------------------------|-------------------|--------|--|--------------------|
| 高発生能卵作出可能な体外成熟技術の開発 | 課題解決研究 | H29～31 | 受精卵移植技術の普及・定着には、受精卵の安定供給と低コスト化が必要なため、体外成熟過程の改善で受精卵の効率的生産を目指す。 | 育種繁殖研究部 |
| 和牛用TMR生産・利用技術の移転・普及 | 課題解決研究 (共同研究型) | H29 | 平成30年1月稼働予定の和牛用TMRセンターにおいて供給を予定している20kg程度の少量梱包技術を確立する。 | 飼養技術研究部 |
| 発酵TMRの摂取量に影響を及ぼす発酵条件の検討 | 課題解決研究 (共同研究型) | H29 | 発酵条件の異なるTMR給与が第一胃内容液性状及びTMR摂取量に及ぼす影響を明らかにする。 | 飼養技術研究部 |
| ダイレクト移植の受胎率を向上させる新たな技術開発 | 基盤研究 | H29 | ダイレクト移植可能な受精卵のガラス化保存法と簡便・容易なガラス化胚移植器具を開発する。 | 育種繁殖研究部 |
| 広島県産和牛における経済的形質に関わるゲノム育種価の推定 | 基盤研究 | H29 | 雌牛側からも育種改良を進めるため、繁殖雌牛の枝肉6形質におけるゲノム育種価の精度向上を図る。 | 育種繁殖研究部 |
| 広島県産和牛への新たな差別化要素付与に関する研究 | 基盤研究 | H29 | 次世代差別化要素を持った牛づくりを目標とし、飼養管理により牛肉のうま味成分を向上させる技術を開発する。 | 飼養技術研究部 育種繁殖研究部 |
| 人工知能を活用した呼吸器病・消化器病・周産期疾病の早期発見技術の開発 | 競争的資金研究 | H29～31 | 開発センサにより、家畜への暑熱の影響を把握し、授精適期を解明することで、効率的繁殖技術を開発する。 | 育種繁殖研究部 |
| 人工知能を活用した呼吸器病・消化器病・周産期疾病の早期発見技術の開発 | 競争的資金研究 | H29～31 | 消化器病の早期発見、乳用牛における食滞の早期発見技術を開発し、飼養技術の改善を図る。 | 飼養技術研究部 |
| 水田里山の畜産利用による中山間高収益営農モデルの開発 | 競争的資金研究 | H29～31 | 地域飼料資源の効率的収穫調製・利用システム開発及び分業型高収益肉用牛経営モデル開発のため、和牛用「たちすずか」TMRの開発・給与体系を確立する。 | 飼養技術研究部 |
| 府県における自給飼料生産利用技術の開発と実証 | 競争的資金研究 | H29～31 | 粳米サイレージ等を活用した和牛肉の差別化技術を開発し、粳米等を活用したTMRによる和牛肥育経営の収益向上と特色ある和牛肉生産を実証する。 | 飼養技術研究部 |
| 凍結精液への抗酸化物質の添加による安定的な体外受精胚生産技術の開発 | 基盤研究 | H29 | 種雄牛、年齢、ロットの異なる凍結精液で体外受精胚発生率を調査し、抗酸化物質添加による発生率改善効果を検証する。 | 育種繁殖研究部 |
| 家畜人工授精事業 | 行政支援事業 | H27～ | 優秀な種雄牛を効率的に作出し、県有種雄牛の凍結精液を安定的に生産供給する。また広島県産和牛の受精卵移植の普及・定着を加速する。 | 育種繁殖研究部 |
| 広島血統和牛増産緊急対策事業 | 行政支援事業 | H28～30 | TPP対策として酪農経営の収益性の向上と広島産和牛の生産基盤の強化拡大を目指して、乳用牛から和牛子牛を生産するため受精卵の供給を行う。 | 育種繁殖研究部 |

●New Face !

平成29年度の異動により、畜産技術センターに5名の転入者が着任しましたので、みなさんに紹介します。



【横田文彦 育種繁殖研究部長】

このたび、西部畜産事務所から3年ぶりに畜産技術センターに戻ってきました育種繁殖研究部の横田です。この3年間、北部畜産事務所時代も含め、鳥インフルエンザ対策などの家畜防疫の仕事を行っていました。

育種繁殖研究部では種雄牛造成、牛肉のおいしさの研究、ゲノム育種価などの牛の改良に関する業務のほか、肉用牛増産に資するウシ体外受精胚の生産といった課題に取り組んでいます。この3年間の畜産事務所時代の経験も活かしながら頑張っていきたいと思えます。

【阪井睦 研究員(エルダースタッフ)】

初めて、研究員として育種繁殖研究部へ勤務することになりました。昔のことですが、家畜保健衛生所勤務時代には体内受精卵移植を担当したこともありました。現在では技術革新が進み、経膈採卵による体外受精卵作成技術が実用化されています。少し視力は落ちましたが、受精卵関係事業の一役を担えるよう精進します。



【次長(事務)青山勝則 写真左側】

尾道にある東部総務事務所から「やまなみ街道」を上ってまいりました。

尾道水道を臨む海岸沿いの庁舎から牛が憩う草原に囲まれたこのセンターへと

海と山の違いがあるものの、豊かな自然に恵まれた職場環境に嬉しく思っています。

北部地域と研究機関、どちらも初めて経験する職場で少し不安ですが、早く慣れて、総務として研究開発の下支えができるよう頑張りたいと思えます。



【管理課 福万匠美 写真中央】

北部総務事務所総務第二課経理係から参りました。

異動は12年ぶりになりますので、環境の変化に戸惑いましたが、皆様のおかげでスムーズに環境に慣れてまいりました。皆様のおかげで、一日も早く皆様になじみたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

【管理課 赤崎泰介 写真右側】

総務部管理課に配属になりました。初めての異動で不安もありましたが、周りの方々には親切にいただき、楽しく仕事できています。

管理課での仕事は物品調達や施設管理等を担当しています。畜産技術センターでの研究を影から支える「縁の下の力持ち」であるという自覚を持って仕事に取り組んでいきます。

編集ひとりごと: 今年の桜はあっという間に満開となり散り去ってしまいました。何か私の心の中と同じようにシンクロしていたのかもしれませんが。来年はもう少し花を楽しむ余裕があればと思いました。

この春からいよいよ中期事業計画に基づいて研究開発が行われますが、うまく県民ニーズをお聞きしながら一日も早い成果移転ができればと考えております。・・・おがっち